

## 1. はじめに

国際都市としてめざましい発展を遂げている上海。世界の金融・運輸・製造業・商業・サービス業など物流の拠点として日本とも大きなつながりをもっており、在留日本人も世界 2 位という巨大コミュニティである。日本から飛行機でたった 2 時間半の距離だが、一步降り立つと日本とは全く違う文化や価値観を持つ場所である。それに加え、鳥インフルエンザや尖閣諸島問題、PM2.5 の問題など、次から次へと対応に追われた 3 年間であった。赴任での研究や実践を報告する。

## 2. 中国・上海の概要

## (1) 概況

上海市は中国の東側にあり、東シナ海（東海）と江蘇省、浙江省に囲まれている。上海市統計局の 2013 年末の発表では、上海市の常住人口は 2415 万 1500 人に達した。戸籍人口は約 1425 万人外来常住人口は 990 万人である。在住日本人人口は 56,481 人。海外の都市としてはロサンゼルス都市圏に次ぐ世界で 2 番目に日本人が多い街となっており、年々増加している。

面積は 6,345.5k m<sup>2</sup>で、中国全体に占める割合は 0.1 パーセントである。日本の都道府県では群馬県とほぼ同じ面積である。

上海市は、上海環球金融中心（492m）をはじめ、東方明珠電視塔（高さ 468m）や金茂ビル（421m）など高層ビルが建ち並ぶ。また、高さ 632m の上海中心も建設中である。また、アジア 3 番目のディズニーランドも 2015 年のオープンに向けて建設中である。

## (2) 沿革

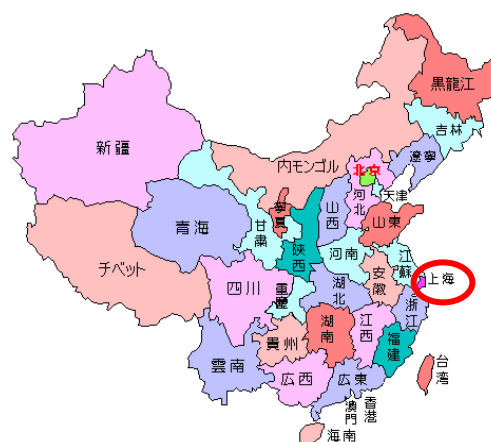
1843 年、アヘン戦争後に締結された南京条約により対外貿易港として開港した。訪米の公使館が設置され、貿易港として発展した。1845 年に英国が租界を設置。以後、列強諸国がこれに習った。疎開は 1943 年まで存続した。列強の中国進出の拠点としての役割を担う反面、東アジアの金融・貿易センターとしての地位を確立し、中国最大の商工業都市となる。

中華人民共和国の成立後は、対外的機能を喪失したが、中国最大の商業都市、最大の開港としての地位は維持。文化、商工業、科学技術の中心地として一定の役割を果たすものの、50 年代以降地位低下していたが、1990 年に浦東地区の開発が国家プロジェクトとして開始されたことを契機として、1992 年に浦東地区（元川沙県、上海市の三林郷、黄浦区・南市区・楊浦区の浦東部分を一体化）が設立され、再び東アジアの金融・貿易センターとして急速に発展している。

## (3) 地理・気候

江蘇省・浙江省に隣接し、長江河口と杭州湾に南北を挟まれ、東シナ海に突き出す長江デルタの沖積平原上に位置。平均海拔は約 4 m。江南の水郷地帯に属し、域内を大小の河川が縦横に交錯している。また、長江河口部の島も管轄し、崇明島などの島を域内に有する。

気候は亜熱帯海洋性気候に属する。夏は高温多湿、冬は寒さが厳しく乾燥する。年間平均気温 17.2 度、年降



水量 902.9 ミリ，年日照時間 1,392 時間である。

#### (4) 経済・産業

GDPにおける産業構造としては第二次産業，第三次産業に比べて第一次産業の占める割合が極端に低く，都市型の産業構造となっている。1999 年には第三次産業が第二次産業を上回り，それ以降ほぼ拮抗する形で推移してきたが，2007 年あたりから差が大きく開き始めた。

2012 年には，第一次産業約 127 億元，第二次産業約 7912 億元，第三次産業約 12060 億元で，合計 20101 億であり，前年比 7.5%増であった。第三次産業の占める割合が 60%に達した。

### 3. 上海日本人学校浦東校の概要

#### (1) 学校のプロフィール

経済発展が著しい上海市は生活条件の向上に伴い，家族帯同の在留邦人が増加している。それに伴い平成 14 年からは上海日本人学校の児童・生徒数も急増し，虹橋校・浦東校合わせて 3000 人を超える世界一の規模を誇る日本人学校である。



浦東校は，上海市の中心部より黄浦江を隔てて東側の浦東開発地区にある。上海浦東新区において平成 18 年 4 月 20 日に開校した創立 7 年目の学校である。虹橋校の急激な生徒増加に対応するために，日本国の補助金と上海日系企業からの多額の寄付金によって平成 18 年 4 月に新設されたばかりの校舎である。小学部と中学部があり，同じ校舎で生活しており，共通の行事も多い。また，2011 年には世界初の日本人学校高等部が設立され，敷地を共有している。

2 万㎡の校地にある 4 階建の校舎，冷暖房完備，全天候型トラックと人工芝のグラウンド，体育館・屋内温水プール・武道場，そして 2 万冊余の蔵書を有し，パソコンによる情報検索コーナーを備えた広い図書室メディアセンター，学部別のパソコン室，ウッドデッキテラス，特別教室など，充実した教育施設である。

#### (2) 児童生徒数（平成 24 年 5 月 17 日現在）

児童生徒数は現在名で，以下のような在籍状況である。

学年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	小計	中 1	中 2	中 3	中計	合計
人数	151	126	111	139	131	136	794	264	261	177	702	1496
学級数	5	4	4	4	4	4	25	7	7	5	19	44

※ 特別支援教室「すずかけ教室」1 （児童は原籍学級より通級）

派遣された 2011 年度は震災直後で中国に渡る日本人が多く，1600 人に迫る在籍数となっていた。編入生がひっきりなしにくる状態で，小学 3 年生では定員いっぱいになりウェイティングがかかる状況が続いていた。その後，2012 年の尖閣諸島問題から編入生の増加率が徐々に穏やかになっていった。2013 年度は PM2.5 の問題が大きく取り上げられ，入学者数は減少傾向になった。2014 年度は 1400 人台となっている。しかし，発展を続ける上海の在日人口は長期的に見て今後も多くいることが予想される。



#### (3) 教育課程

学習指導要領の各教科標準時数を基にした教育課程を組んでおり，小学部 3 年以上の「総合的な学習の時間」には，現地理解教育・国際理解教育を積極的に行っている。

また，授業において，全学年で英会話・中国語会話を週 1 時間ずつ取り入れ，21 世紀を生きる子供たちに必要な資質や能力の育成を図っている。

学校行事は多彩で，運動会や学習発表会の他，中国語日本語スピーチ大会（中学部）や中国で活躍した阿倍仲麻呂の功績にちなんで百人一首に取り組む阿倍仲麻呂ウィーク・現地の学校とゲームや歌などをして交流する現地校交流・中国雑技や中国の文化を体験するチャレンジタイムなどの多彩な行事がある。

(4) クラブ・部活動

小学部は、隔週月曜日を基本に月2回程度クラブ活動を行っている。また、中学部は、毎週火・木曜日に部活動を行っている。上海日本人学校では、クラブ・部活動に全児童・生徒が参加している。また、中学部の部活動には小学校の教員も参加し、一緒に活動する。

(5) 卒業後の進路

中学部を中心に、年間計画に基づき進路指導を進めている。日本の公立・私立の中学、高校の担当者が来校して行う学校説明会がある。中学部を卒業すると、上海日本人学校高等部や日本の高等学校に進学する生徒が多い。

(6) 子供たちの様子

子どもたちは元気がよく素直で明るい。昼休みには時間いっぱいグラウンドや体育館を走り回り、授業中は学習に集中する。運動会や学習発表会の行事では、皆で協力してまとまり頑張ることができる。また、編入生が多いこと、小学部・中学部併設と特別支援教室をもつ学校の特性を活かした上海日本人学校はやさしく、思いやりをもつ児童・生徒たちである。

4. 国際理解教育の実践

国際理解教育の実践として、以下の二点を紹介する。

I コミュニケーション能力を高める中国語教育の研究

II 豊田佐吉の資料をもとにした国際理解教育

I コミュニケーション能力を高める中国語教育の研究 一意欲と興味を高める授業を目指してー

上海日本人学校では全学年で週一時間の中国語の授業が行われ、中国語のレベルに合わせてクラス分けをして授業を行っている。小学校段階での中国語を学習することは、上海日本人学校独自の特色である一方、カリキュラムや題材については、独自に開発していかなければならない。児童の発達段階に合わせた中国語の活動となるよう、研究していく必要性を感じこのテーマを設定した。

発達段階に即した中国語の題材開発を行うことで、児童が豊かなコミュニケーション能力を身につけることができることを目的として調査研究を行った。

【研究報告】

1 日本人学校における中国語教育について

～児童生徒アンケートより見えてきたもの～

児童生徒の実態把握と課題改善のために、全校児童生徒を対象に中国語に関するアンケートを行った。

アンケート結果より見えてきたもの

①入門初期や中国語が話せる児童生徒ほど学習意欲が高い。

→入門期の意欲を長く持続させること。中級の児童生徒に充実感のある授業を提供することが授業改善につながる。

②中国語での活動での興味は、発達段階によって違う。

→小学校低学年：歌やゲーム 小学校高学年：ゲームや文化 中学部：友達との会話や文章を読むこと 児童生徒の興味関心に即して、授業の活動内容を工夫できる。

中国語アンケート		番号
1：中国語の授業について質問します。1～4の番号で答えてください。 とてもあてはまる→1 どちらかといえばあてはまる→2 どちらかといえばあてはまらない→3 まったくあてはまらない→4		
質問		
ア	中国語の時間は楽しいですか。	
イ	中国語の授業の内容はよくわかりますか。	
ウ	中国語の時間に、進んで中国語を使っていますか。	
エ	中国語の時間以外で進んで中国語を使っていますが、 どんな時ですか。	
オ	中国語の授業を通して、中国の言葉や文化をもっと知りたくありませんか。	
カ	中国語がもっと話せるようになりたいですか。	
キ	あなたは中国語が話せますか。	
2：中国語では、どんな活動が楽しいですか。楽しいと思うもの全ての番号を書きましょう。 1 先生との中国語での会話 2 友達との中国語での会話 3 先生の中国語を聞くこと 4 中国語の文章を読むこと 5 漢詩を読むこと 6 中国語の文章やピンインを書くこと 7 ゲーム 8 中国語の歌 9 中国の文化や習慣の話などを聞くこと		その他：
3：中国語や中国の文化に興味を持っていることや知りたいことはありますか。できるだけ具体的に書いてください。		
小・中 学部	男・女	年 組 番
中国語を学習している期間		年 月 日
※学校以外で前から学習していた人や、家庭でも中国語を話している人は、その年月も入れて書きましょう。		

## 2 中国語テキストの活用と、発達段階に応じた指導方法の研究

上海日本人学校における中国語において授業の実態と課題を把握し、改善方法をまとめて実践した。

### (1) 日本人学校における中国語の課題について

#### ① 上海日本人学校における中国語教育の位置付け

小学校3年生以上は、総合的な学習の時間の一時間に位置付けられている。

#### ② 目的

- 中国語の習熟度に応じたクラス編成による学習を進め、実践的に中国語を学び合うことができるようにする。
- 中国の文化や生活についての学習を取り入れ、中国に親しむことができるようにする。

#### ③ 指導形態

上海日本人学校浦東校では、週に1回中国語の授業を実施。中国語の学習歴、習熟度別にクラス分けをし、少人数の中で一人一人の実態に合わせた学習を展開している。

#### ④ 指導者

語学学校から派遣された講師が中心となって授業を行っている。語学に関しては一定の研修や知識を持っており、日本語も上手に扱える講師ばかりである。中国語に対する意欲も熱く、熱心に指導される講師ばかりである。しかし、普段は主に成人に一对一で授業をしている講師である。

講師という立場上、教材研究や授業研究に充てられている時間がなく、講師一人一人の力量ややり方に任せているのが現状である。話を聞くと、やはり大人数を相手にしている難しさや、児童の発達段階に応じた授業づくりについて難しさを感じている講師もいる。

また、学級担任は中国語の授業中、児童の様子を見て回り、一緒に授業に参加したり、助言を行うなどの指導が主となっている。

### (2) 具体策

- ①明確な中国語教育の目標を設定し、それに沿った評価を行うこと。
- ②児童の多様な能力や意欲に応じた中国語の授業実践を行うこと。
- ③教員、中国語講師が目標を理解し、授業の向上を行っていくこと。

### (3) 実践とその結果

課題に対し、以下のような実践を行った。

#### 1. 中国語の全体計画の作成

目指すべき中国語の目標を整備し、9年間を見通した計画を立てられるようにした

#### 2. 小学部の中国語テキストの変更・年間指導計画・重点学年の細案作成

【新テキスト】

中国語の授業の充実のため、小学部において全学年のテキストを変更した。これまで、小学部3年生から6年生まで一冊のテキストを使用してきた。テキストが一学年一冊になったことにより、学年の実態に応じた指導が可能になった。また、学年内のレベルの違いについては、テキストの活用の幅を調整することによって、初期の児童にも難しくなりすぎないように配慮をした。児童に一枚ずつのCDと学習カードが着いているため、家庭での学習がしやすくなった

これまでも、単に中国語を教えるだけでなく、季節の話や中国と日本の文化の違いなどにも触れてきた。しかし、講師ごとに偏りがあったり、学年で重複してしまうなどの問題点があった。テキストを基本に学習することにより、体系的に文化の話ができるようになった。

テキストは新しく発行されたばかりのもののため、指導書がついていない。そのため、講師も教科書だけを



頼りに授業をしなければならなかった。より充実した授業にするために、同じテキストを使用している虹橋校と情報交換会を行った。また、年間指導計画も作成整備を行った。さらに、重点学年として6年生の一時間の指導案を毎週作成してもらい、助言を行っていった。年間を通してテキストの研究を行うことができた。

#### 小・中学校における中国語教育法について

小学校段階での中国語学習は、まだまだ研究されていない分野である。しかし、上海だけでも5万人を超す日本人とその家族が滞在している環境において、中国語学習は大事にしていくべきである。言語を習得することは、その国ノ文化や風習なしには学習できない。子どもたちが興味を持って中国の文化や言語に触れ、将来国際社会で活躍する人材を育成するためにも、今後も中国語学習を特色とした学校作りをしていってほしい。

## Ⅱ 豊田佐吉の資料をもとにした国際理解教育

日本の発明王と呼ばれ、今のトヨタグループの創始者となった豊田佐吉は、上海で工場を起し、中国にも大きな功績を残したことで知られている。また、民間外交と呼ばれ、日中親善にも力を尽くした偉人として、今回社会科副読本に導入された。その教材を国際理解教育の一環として紹介し、現代にも通ずる日本人の生き方をともに考える授業を行った。



日中関係の悪化に伴い、日本人学校内でも様々な対応に追われた。デモの危険による運動会の中止・現地校交流などの交流行事の相次ぐ中止など、交流する機会が減ってしまった。また、PM2.5の問題が出てくると、日本における中国のイメージは悪くなる一方である。

中国で暮らしている日本人にとって、どのように中国の人々と接していくかということは、常に意識をする生活であった。子供たちは素直な分、マイナスイメージの報道をそのまま受け取ってしまう。しかし、中国にいるからこそ、本当の中国の姿を見ることができるのである。

### 5. おわりに

東北関東大震災の直後の平成23年4月。計画停電が行われるなど東日本はまだ混乱の残る中、上海へと派遣された。上海では、日本人とわかると、「津波は大丈夫なのか」と心配して声をかけられた。日本人学校も影響はあり、日本からの編入生で定員がいっぱいになる学年など、混乱の年であった。

24年度は尖閣諸島問題を発端として、一気に日中関係が悪化した。運動会の中止や日中交流行事の相次ぐ中止などに直面し、「平和でないこと」を肌で感じた。当たり前のように登下校し、日常生活を送ることのありがたみ。その脆さ。在外で外国人として生活することの弱さ。しかし、上海では嫌な目にあつたことは幸い一度もなかった。多くの中国の人たちは冷静に私たちをいつもどおり接してくれていた。

25年度は日中関係の混乱は続いていたものの、交流行事などは少しずつ回復してきていた。そこにPM2.5の問題が日本で大きく取り上げられ、学校での対応に追われた。子供の安全・安心を守ることを考えた3年間だった。

外から日本を見ることで、魅力や課題にたくさん気づくことができた。また、日本から見ていた中国のイメージもまた、実際に生活してみるとがらりと変わった。日本での中国の報道の仕方にも、違和感を感じることも多かった。改めて、一つの事象を多方面で見ることの大切さを学ぶことができた。それもこれも、実際に現地で見感じたからこそわかったことである。日中関係改善の糸口が見えない中、人と人との交流が少なくなると、そういった偏ったイメージがひとり歩きすることになる。政治的な問題は避けられなくても、民間ベースでの交流は絶対に絶やしてはいけない。今後、幅広い視野で埼玉の子供たちに国際理解と平和親善の大切さを伝えていくことが私の派遣した意義の一つであると考えている。

参考URL：<http://www.jetro.go.jp/> <http://ja.wikipedia.org>